

第 56 回 愛知県河川整備計画流域委員会 議事抄録

< 汐川水系② >

日時：平成 27 年 12 月 24 日（木） 13 時 30 分～16 時 30 分

場所：ウインクあいち 11 階 1101 室

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 委員長挨拶
4. 議題

汐川水系②

○河川整備計画の方向性について

5. 質疑

(委員意見)

P.51 の水質改善について、改善に努めるとあるが、BOD は良好であると言っている。住民は水質が汚いとも書いてあります。その矛盾は何ですか。水質には BOD に加えて N、P も入れてほしい。そうすると、住民の意識とのギャップがわかると思います。

汐川干潟は砂泥質干潟とあるが、その証拠を教えてください。

P.23 について、単純ミスだと思いますが、文章には、0.0009 と書いてありますが、表では 0.009 と書いてあります。

(事務局回答)

水質改善については、環境基準は E 類型の指定となっております。住民の意識とのギャップについては、汐川水系は以前はかなり水質が悪かったという履歴がございます。昔の水質に比べて、近年改善されてきているが、住民の皆さんがご納得するレベルには到達していないと感じています。

汐川干潟が砂泥質干潟であるという根拠データは今手元にありませんので、調査・確認して回答します。

誤記について、表の値が正しいため、修正します。

N、P については、資料にはありませんが、汐川流域の場合、本川で N は 10 mg/L 前後、P は 1 mg/L を切るぐらいの値です。支川では、N が 20 mg/L という箇所もあります。

(委員意見)

土地利用では市街地が平成 18 年から 21 年にかけて減っているのに、市街化率の将来予測は増えている。また、人口予測を見ると人口も減っている。一方で、市街化調整区域が市街地化するとも書いてある。どのように市街化を予測しているのか教えてください。

(事務局回答)

将来予測については、まず、平成 21 年に市街地が減っている指摘については、データの集計方法が、ガラスハウス等を過去は建築物と捉え市街地としていましたが、平成 21 年には畑の分類となったためであり、実際の市街化の伸びは変わっていない状況です。

汐川流域の人口の将来予測は、人口は減少する方向で予測していますが、核家族化が進んでいることもあり、1 世帯当たりの人口が減少していくため、世帯数が増えています。

市街化の想定については、2030 年まで世帯数は伸びていくため、市街化が伸びるであろう

うという想定をしています。そのため、まず市街化区域全域が市街化されると想定し、不足する場合には調整区域が順次市街化される、と想定しています。

(委員意見)

根本的な問題ですが、危険なところは住まないように誘導すべきだと思います。今後は人口もそれほど伸びないので、なるべく市街化区域は抑制するという方向で考えていくべきだと思います。

(委員意見)

P.13 の過去の浸水面積と浸水戸数の表で、浸水面積が最も大きい昭和46年の浸水戸数が極端に少なく思えます。46年の浸水面積は、正しい値ですか。

(事務局回答)

データの内容を再確認いたします。

(委員意見)

P.21 について、「利水についての意義は大きい」と記述がありますが、主語がよくわからない。汐川なのか、豊川用水なのか、少し表現を検討していただきたい。

(事務局回答)

主語は豊川用水です。表現など、修正いたします。

(委員意見)

P.47 と P.48 について、整備対象と実際工事をやる区間とが一致するのか一致しないのか、解りづらい。

(事務局回答)

洪水対策は、汐川本川について年超過確率10分の1の規模で実施していきますが、既に年超過確率10分の1程度の流下能力を有しているところに対する記述が抜けていますので、詳しく記載致します。

整備計画の本文には、県管理の河川を全て整備対象として区間を挙げています。その中で、実施に関する事項のところに施行区間を旗揚げする形にしています。

(委員意見)

P.21 について、汐川の水源は豊川も一部あるのか。

(事務局回答)

汐川の水源という意味では基本は降雨です。汐川流域ではそれに加えて、豊川用水を経て豊川の水が汐川の流域で耕作に利用されて、余った水等が汐川に入る、と言う趣旨です。

(委員意見)

河川整備計画の目標について、年超過確率10分の1の規模の降雨、いわゆる計画降雨や計画流量を算定していると思うが、今回出していない理由は何ですか。

(事務局回答)

計画降雨などは、次回の委員会で本文案として提示いたします。

6. 閉会